

私学の英語

最前線

社会が変わり、求められる力が変わってきた今、とくに「英語」が注目を集めています。ここでは着実に力を培ってくれる「私学の英語教育」を紹介します。

「毎日が留学」の授業で「使える英語」が身につく

9人のネイティブ教員が、英語の授業だけでなく、英語教育の中心として活躍する同校。「話す」「書く」「考える」を重視した実践的なオールイングリッシュの授業で、中3までに英語で日常会話ができるレベルにまで導きます。

ネイティブ教員が英語教育を牽引

ネイティブ教員によるオールイングリッシュでの英語の授業を中1から段階的に、高3では、ほぼすべての授業がオールイングリッシュで行われる同校。「実社会で使える英語」を生徒が身につけるため、実践的な学びを重視しています。同校の英語教育の特徴について、理事・副校長の山口龍介先生にうかがいました。

「使える英語」は実社会だけでなく、大学入試でも求められる力になっています。英語の筆記試験を、実用英語技能検定の資格に置き換える大学も出てきました。本校では4技能を中心に、生徒が自分の思いを話したり、議論したりできる「一生ものの使える英語力」を養う英語教育を実施しています。その鍵となるのが、9人のネイティブ教員です。

9人のネイティブ教員のうち、7人は英語の特別免許を取得しているので、単

独でオールイングリッシュの授業を受け持つことができます。

また、本校のネイティブ教員は、大学受験はもちろん、実用英語技能検定やTOEFLなどの検定の知識も豊富です。英語科の副主任もネイティブ教員で、全員が教科会議に出席し、皆がチームの一員として本校の英語教育の企画段階から貢献してくれています。

同校は、全教科で先端ICTを活用し、クラウド上でリアルタイムに手書きのメモやノートを共有することで、理解を深めるほか、共同作業も行うことができ、効率的かつ効果的な授業を展開しています。英語科では、中1〜高1で中高6年間の学習範囲の大半を学び終えるそうです。「高2〜3では、ネイティブ教員によるオールイングリッシュの授業を中心に行います。生徒は学校にいながらして、留学して受ける英語教育と同じレベルの、実践的で高度な学びに取り組むこと

ができるのです。

本校では中3で英検準2級、高3で英検準1級取得レベルの英語力を身につけることを目標としています。学び始めは英語に苦手意識がある生徒も、ネイティブ教員と5人の英語を話せる日本人教員がチームとなり、段階を追って目標達成まで導くことで、確実に英語力を上げていきます」

「コロナ禍でも正規留学を実施

世界で通じる英語力の習得を目指す同校は、アメリカ・オレゴン州の姉妹校への1年間正規留学や、2週間の語学研修、カナダ・バンクーバー語学研修に力を入れています。

「コロナ禍でも、生徒の学びを止めないよう、正規留学を継続して行ってきました。2022年の夏は、カナダの語学研修を再開します。中高での海外体験は、



高3生の授業の様子。「10代向けの商品広告について」の記事を読み、自分の経験を重ね合わせながらディスカッションしました。

人生観が変わるほどの素晴らしい経験になるからです」

ジョシュア先生(米国出身)

英語科副主任。アメリカ・オレゴン州の姉妹校の卒業生です。

- ① 日本語を学んだ時に受けたサポートを、自分も英語を学ぶ人に返したいと思いました。
- ② ミスは学習の大事なチャンス。ためらわずにどんどん英語を使いましょう。

クリス先生(英国出身)

言語学修士をもっています。前職は立教大学の英語指導者です。

- ① 若い頃から日本に興味があり、日本で教員になろうと思っていました。
- ② とにかくたくさん、生徒が英語を話す機会をつくることを心がけています。

スティーブン先生(英国出身)

フォトジャーナリストとしても活躍しています。

- ① グラフィックデザイナー・写真家として来日しましたが、もっと日本のことが知りたくて、日本で教員になりました。
- ② 生徒が思いを英語で効果的に表現し、ディスカッションできるようになることです。



ネイティブの先生に聞きました！

- ① 日本で教員になった理由は？
- ② 授業で大切にしていることは？

セルウィン先生(英国出身)

長い教員キャリアを持っているだけでなく、プロのミュージシャンとしても活動しています。

- ① ドイツで英語を教えていた時、日本人の生徒から日本について聞き、興味を持ちました。
- ② 生徒の趣味や興味があることを取り入れて、学ぶモチベーションを上げることです。

マーク先生(ニュージーランド出身)

教員歴が長く、言語学の修士も取得しています。

- ① 看護を学びに日本に来た時、英会話を教える機会がありました。本格的に教員になりたいと思い、一度母国に戻って勉強しました。
- ② サッカーの本を読むだけではサッカーは上達しません。英語も同じ、たくさん使おう！

トミー先生(英国出身)

分子生物学が専門の理系人。趣味は和菓子作りです。

- ① 日本に興味があり、教える仕事がクリエイティブだと感じていたからです。
- ② 生徒が楽しくワクワクすることです。もっと習いたいという気持ちが膨らみますよね。

担当先生より英語が好きになって、使えるようになる学校です

ネイティブ教員によるオールイングリッシュの授業というと、身構えてしまうかもしれません。小学校の英語に興味がなかったり、苦手だと感じたりしていても、全く気にしないでください。本校で一から学べば、中学の3年間で日常会話は話せるようになりますし、高校を卒業する頃には、海外でも不安なく使える英語を身につけることができます。ぜひ、体験授業などにも参加してくださいね。



理事・副校長／山口龍介先生



黒板の無い教室を使った第7世代教育ICTの力で、授業は分かりやすく明解に、テンポよく進みます。

瀧野川女子学園

[東京都北区・女子校]

この学校の情報は「School-pot」へ

